

1部 水野谷武志ゼミ I・II

参加学生数 21 名



水野谷 武志
地域経済学科
教授



寿都町役場にて

ふるさと納税制度によるまちづくりへの影響

研修地：寿都町・岩内町

●研修目的

ふるさと納税制度をまちづくりにうまく活用している自治体もあれば、そうでない自治体もある。ふるさと納税制度がまちづくりにどのように活用され、そこではどのような問題があるのかについて、寿都町と岩内町を事例として、具体的に検討することを本研修の目的とした。

研修先・日程

- 9月3日 道の駅「みなとま〜れ寿都」で昼食と視察、寿都町中心市街地を町歩き、寿都町役場にて職員と意見交換会、水産加工会社「かねぎ南波商店」を視察
- 9月4日 寿都町総合文化センター内の寿都町文化財展示室を視察、北海道指定有形文化財・カクジュウ佐藤家を視察、そば処「鎌御殿」で昼食と視察
- 9月5日 寿都アンテナショップ(ニセコ町)を視察、岩内町郷土館を視察
- 9月20日 ゼミ生選抜5名が岩内町役場を訪れ職員と意見交換会

●総括

本研修から言えることは、第1に、ふるさと納税返礼品として、魅力的な海産物を用意し、返礼品を全国規模で検索し申込ができるウェブサイト(ふるさとチョイス)などを通して効果的に宣伝していることである。第2に、ふるさと納税制度による寄付額がまちづくりの貴重な財源となっていることである。例えば風力発電の盛んな寿都町ではその施設維持に、また「怒涛祭り」で有名な岩内町ではその壮大な花火大会の開催に活用されていることがわかった。第3に、返礼品を納品する業者と自治体との信頼関係の大切さである。良い信頼関係を築くために、自治体職員が返礼品納入業者とのコミュニケーションに努力を払っていることがわかった。

このようにふるさと納税制度の積極的な側面を学ぶことができた一方で、難しい問題があることもわかった。それは、ふるさと納税制度は国の制度であり、この先もずっと同じ形で続く保証はないという点である。そのような不安を持ちつつも、すでにこの制度による寄付金が自治体の貴重な財源となっているのが現状である。長期的な視点が必要である「まちづくり」にとって、現状のふるさと納税制度を今後どのように活用すべきかは自治体にとって大きな課題である。



寿都町の弁慶碑

学生研修記



船曳 百音
地域経済学科 3年
富良野高校出身



穴澤 悠真
地域経済学科 2年
北海学園札幌高校出身



地場産品を活かした寿都町のまちづくり

私たち水野谷ゼミは、近年、盛り上がりを見せている「ふるさと納税」について学び、どのようにまちづくりを行うのかを考察しました。今回、寿都町と岩内町を調査地としました。私は寿都町について書きたいと思います。

寿都町は小さな町でありながらも制度を有効に活用し水産加工会社と連携しながら旬な海の幸を提供しており、近年では寄付件数を飛躍的に増加させています。

研修での意見交換会では、水産加工会社との連携について「信頼関係を保つために寿都町の職員の方が業者の方へ直接出向いて意見を聞き、提案している」などといった寿都町の職員の方々のまちづくりに対する熱い思いが感じられました。また、寄付者に絵葉書を贈るというユニークな取り組みも行って、寄付者との繋がりを大切に、ふるさと納税に依存せず「寿都」を認知してもらうためのツールとして制度を活用していることがわかりました。

- 写真①かねぎ南波商店社長との意見交換会
- ②カクジュウ佐藤家を見学
- ③寿都アンテナショップ
- ④岩内郷土館

岩内町のふるさと納税について

今回、水野谷ゼミではふるさと納税がまちづくりに与える影響をテーマとして寿都町へ、そして地域研修時では日程が合わなかったため後日、岩内町役場へ行ってきました。

岩内町役場では職員のふるさと納税担当の方にふるさと納税意見交換会という場を設けていただき、ふるさと納税の基本的なしくみから広報、運営、運営を行うに当たっての苦悩などについて、パワーポイントを使いながら説明していただきました。ふるさと納税の知名度は徐々に高まってきているものの未だ浸透しておらず、具体的にどのようなものか、協力した場合、企業は儲かるのかを伝えるのが難しく、なかなか新規の企業に協力してもらえないことを学びました。それに対する解決策として道の駅でふるさと納税とはどのようなものかわかる資料を無料配布していて、その資料を実際にもらいその資料が簡潔でかつ分かりやすかったのが印象的でした。

役場の方に直接話を聞くという事はなかなかなく、とても良い経験となったためこのような機会があればまた行ってみたいと思います。